

(お知らせ)

定期検査中の福島第二原子力発電所2号機における誤警報の発生および  
原子炉建屋低電導度廃液サンプルピットへの水の流入について

平成19年8月16日  
東京電力株式会社  
福島第二原子力発電所

当所2号機(沸騰水型、定格出力110万キロワット)は、平成19年4月6日より第17回定期検査を実施しておりますが、本日午前8時7分頃、「原子炉水位低トリップ\*<sup>1</sup>」の警報が発生したことにより、「A系原子炉自動スクラム\*<sup>2</sup>」および「B系原子炉自動スクラム」の警報が発生いたしました。

その後、ただちに「原子炉水位低トリップ」の警報は自動解除したため、原子炉水位に変動がないことを確認した後、本日午前8時24分頃、「A系原子炉自動スクラム」および「B系原子炉自動スクラム」の警報を手動解除いたしました。

本事象は、警報のみ発生したもので、原子炉は停止中で制御棒は全て挿入状態であるとともに原子炉の水位に変動はなく、安全上の問題はありません。

なお、原子炉再循環系配管検査の準備作業を行っていた際に、誤って警報が発生したものと推定しておりますが、今後、原因について調査いたします。

また、本日午前8時31分頃、2号機原子炉建屋地下2階(管理区域)にある低電導度廃液\*<sup>3</sup>サンプルピット\*<sup>4</sup>(堰)へ水が流入したことを示す警報が発生したため、当直員が現場を調査したところ、同ピット内に水が溜まっていることを確認いたしました。

溜まった水の量を測定した結果、約75リットル、放射エネルギーは約 $1.0 \times 10^7$ ベクレルであることがわかりました。

溜まった水は同ピットの堰内にあることを確認しており、本日、仮設ポンプを使って回収し、同ピット内の清掃を実施いたします。

なお、本事象は上記の警報発生事象の復旧過程で発生したものと推定しておりますが、今後、原因について調査いたします。

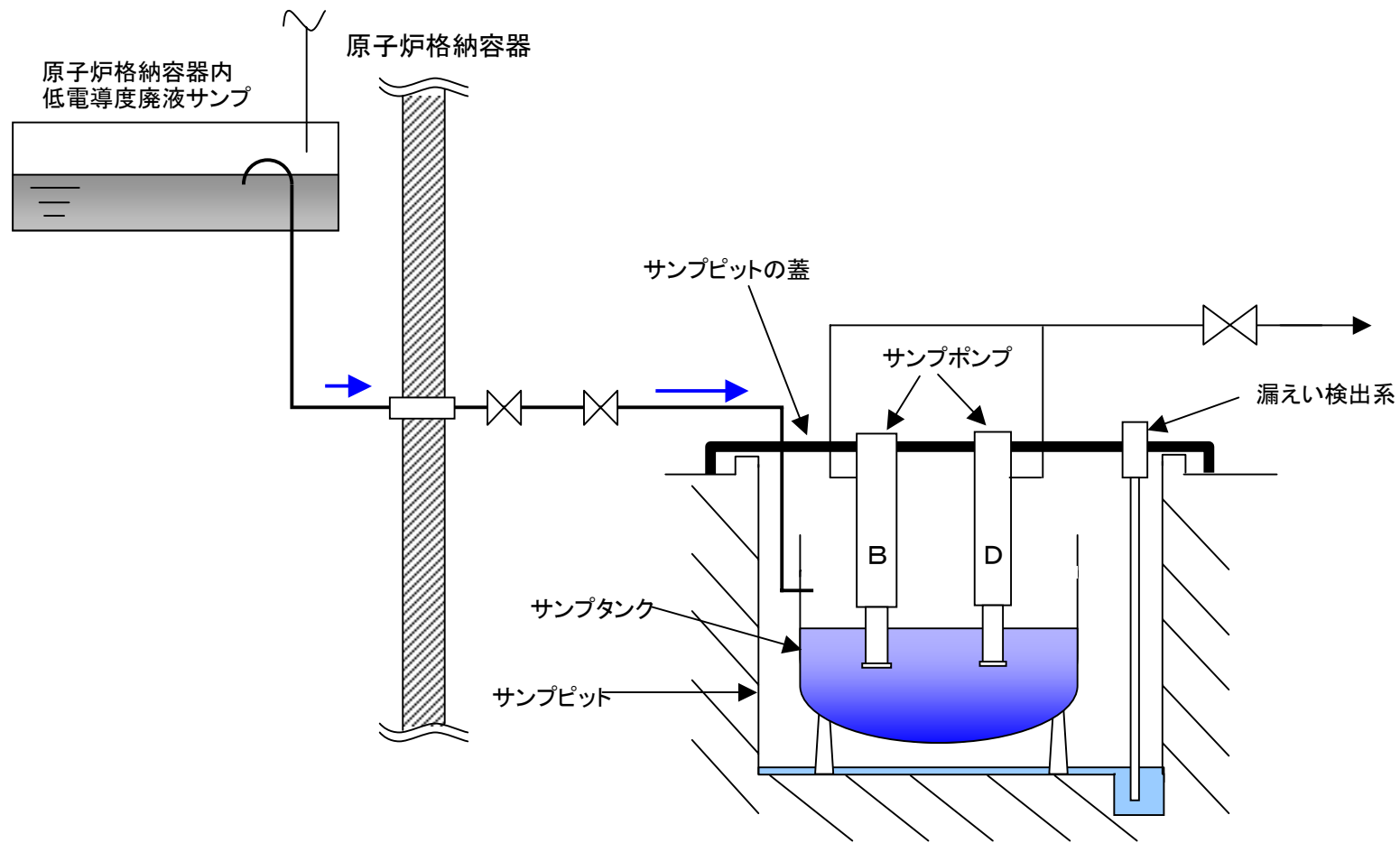
これによる外部への放射能の影響はありません。

以上

\*1：原子炉水位低トリップ

原子炉の水位が通常よりも下がった際に、原子炉を停止させる信号。

- \* 2 : A系 (B系) 原子炉自動スクラム  
原子炉を自動で緊急停止する際に出る信号。
- \* 3 : 低電導度廃液  
各建屋内の機器からの排水等。
- \* 4 : サンプピット  
廃液を受けるタンク周りに設置された堰 (せき)。



原子炉建屋低電導度廃液サンプ 概略図